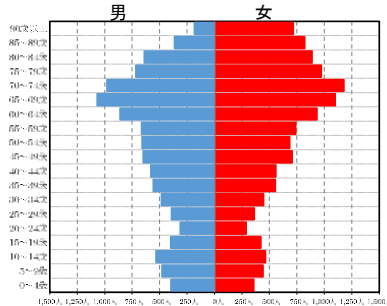


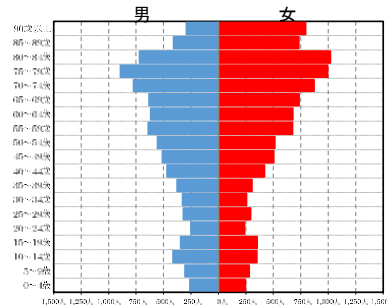
水俣市人口ビジョン改定版（概要）

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計データに基づく水俣市の人口ピラミッド

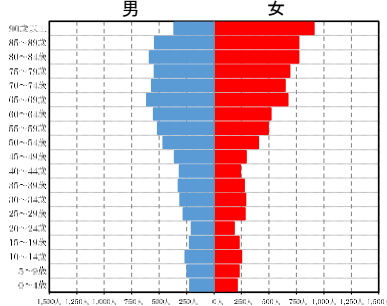
2020年 人口 23,557人



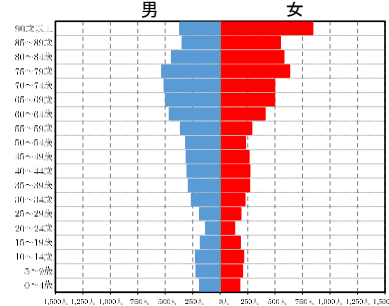
2030年 人口 19,372人



2040年 人口 15,812人



2050年 人口 12,700人



人口の減少が地域の将来に与える影響についての考察

(1) 産業への影響

人口の減少は、個人の消費活動の減少、すなわち地域産業の市場規模縮小につながる。

また、生産年齢人口の減少により、働き手の不足が危惧される中、雇用の場自体も無くなることにより、更なる人口流出への「負のスパイラル」となっていく。

(2) 市民生活・地域社会への影響

市場規模の縮小により、市民生活を支えるサービス業や安心・安全な暮らしを守るために欠かすことができない医療関係などの経営が困難となり、更なる人口流出のきっかけになる危険をはらんでいる。

さらに、地域の担い手が流出することにより、地域コミュニティの維持すらも困難となれば、地域の伝統の伝承などにとどまらず、地域そのものの崩壊にもつながりかねない。

(3) 行政運営への影響

人口減少、市場規模の縮小は税収の減少にもつながる問題である。

その結果、老朽化が進む公共施設や住民生活を支えるインフラの改修整備、高齢化による社会保障関連経費の増加等に対応するための財源確保に、影響を及ぼすこととなる。

目指すべき方向性と基本目標の設定

本市の「まち・ひと・しごと創生」の目指す方向性については、「しごと」起点、「ひと」起点、「まち」起点という多様なアプローチを柔軟に行い、更に効果的にデジタルの力と地域の特性を活かした施策を積極的に推進することで、まち・ひと・しごとの好循環を促し、「人々が安心していきいきと暮らし、働き、子どもを産み育て、真の豊かさを実感できる魅力的なあらゆる機会」の創出を目指す。令和7（2025）年度から令和10（2028）年度までの4年間を計画期間とする『第3期総合戦略』を策定するにあたり、次の4つの基本目標を設定。

- ・地域に根差した産業を育み、水俣に仕事をつくる
- ・質の高い教育と地域資源を活かし、水俣へ人の流れをつくる
- ・若者・子育て世代の生活環境を整え、水俣で結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・安心して幸せを感じながらいきいきと暮らせる魅力的な水俣をつくる

水俣市の人口見通し 長期目標

将来展望のための仮定

①パターン1（社人研推計準拠）

2060年人口は 10,079人

②シミュレーション1（パターン1＋移動均衡）

仮に、パターン1において、人口移動がゼロ（均衡）で推移すると仮定した場合、2060年人口は14,221人

③シミュレーション2（パターン1＋出生率上昇）

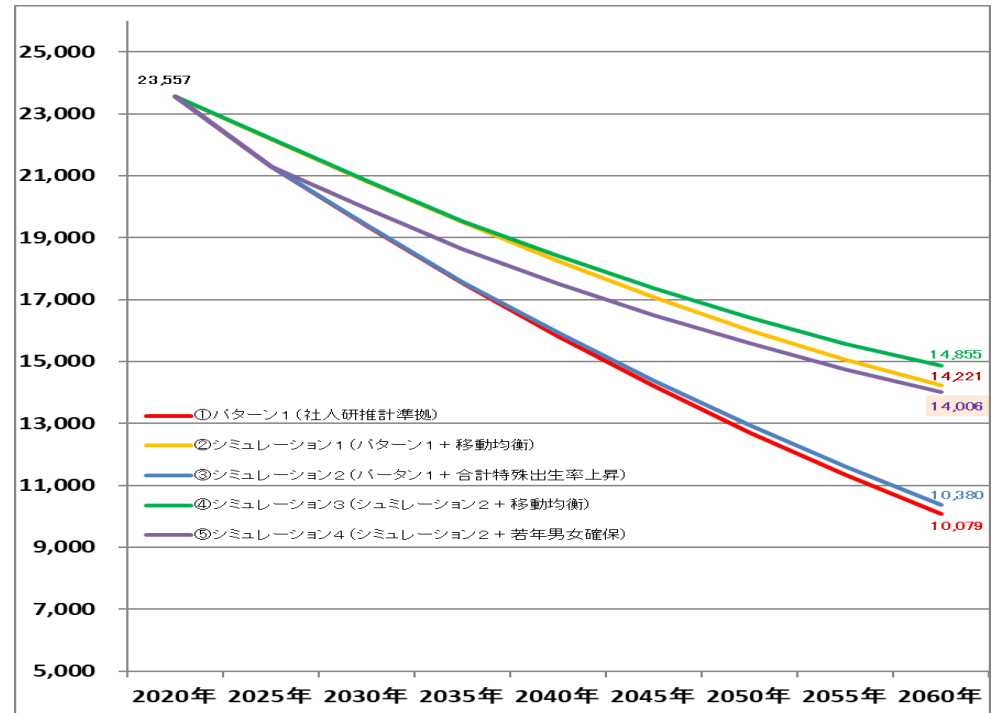
仮に、パターン1において、合計特殊出生率が2040年までに人口置換水準程度（2.1）まで上昇すると仮定した場合、2060年人口は10,380人

④シミュレーション3（シミュレーション2＋移動均衡）

シミュレーション2において、人口移動がゼロ（均衡）で推移すると仮定した場合、2060年人口は14,855人

⑤シミュレーション4（シミュレーション2＋若年男女中心に確保）

シミュレーション2において、男女全体で年間100名（少子化対策で重要な若年男女（5～44歳）においては各30名程度を条件）程度の転出抑制又は転入増加により確保した場合、2060年人口14,000人程度



【水俣市の人口将来展望】

シミュレーション4を目標軸とし、4つの基本目標による施策の展開により、2060年において14,000人程度の人口を確保する。

2060年の人口目標 14,000人程度